

お酒の話

塚田 實

河豚をつつきながらヒレ酒を飲む、冬の楽しみの一つだ。世界中で仕事をしてきたので、お酒には思い出が多い。

日米貿易摩擦が激化すると、自動車メーカーはアメリカでの生産活動を活発化させ、自動車部品メーカーも米国での生産を促された。H 社も工場進出を計画し、ケンタッキー州ハロックスバーグ近郊に候補地を決めた。ここは所謂ドライカウンティで禁酒地域だった。あるとき飛行機を降りて、レキシントンから工場予定地に向うと道路沿いに“Welcome to the Home of Wild Turkey”の大きな看板が目についた。皮肉なことにドライカウンティの隣に Wild Turkey の大醸造所があった。それまでアメリカンウイスキーといえば、Jack Daniel's しか飲んでいなかったが、Wild Turkey にも親しむようになった。強く焦がしたホワイトオーク熟成樽で作るウイスキーには独特の味わいがある。

イギリス駐在時スコットランド・ゴルフ旅行に出かけた。ゴルフを楽しんだ後バーに腰を下ろすと、バーテンダーが優しく 6 つあるスコットランド・シングルモルトウイスキー生産地の特徴とブランドを教えてくれ、一つずつテイストした。そして気に入ったのが Speyside の Macallan と Islands の Talisker だった。今でも時々愛飲している。

大阪に単身赴任したとき、灘五郷や京都伏見の醸造所を巡り、試飲だけで酔っ払ったことがある。灘は六甲山の麓に湧き出る宮水と山田錦をベースに丹波の杜氏が銘酒を造り出す日本一の酒どころだ。

酒を無茶飲みした苦い思い出もある。韓国ではビールとウイスキーをミックスした原爆や水爆と呼ぶ酒を飲まされてふらふらになった。相方はすっかりしていたので、気がつくとキーセンがアイスペールに酒をそっと捨てていた。

中国では 52 度の茅台酒や五粮液の白酒で何回も乾杯させられた。大変だったのは青島で 70 度の白酒「らんやたい瑯琊台」を飲まされたときだ。さすがに部屋に戻るなりぶっ倒れた。

年を経て無茶飲みすることはなくなり、また娘との約束で週二日の休肝日を設けることになった。酒は楽しく飲みたいものだ。